

インフォメイトしよ

Vol.06
April
2015

特集

『赤アザ』に対するレーザー治療開始のお知らせ
 地域包括ケアシステムと医療機能分化について
 新しいバス路線が開通します！
 北多摩北部災害医療図上訓練を行いました。
 第4回ブラック・ジャックセミナーを開催しました！

皮膚科では、皮膚に出現したあらゆる疾病を診察しております。また、皮膚に付随するもの、例えば毛髪などの疾患、円形脱毛症なども皮膚科の対象疾患です。公立昭和病院の皮膚科は、昨年4月より担当医師が大きく交代となりました。今後は、主に東京大学医学部附属病院で診療や研修を行っていた医師が担当させていただきます。診療体制のさらなる充実のため人員も増加となり、一昨年度は医師2名体制でしたが、昨年度からは医師3名体制に、本年度からは医師4名体制となり、これにより入院が必要となるような重い症状の患者さんにも対応できるようになり、様々な疾患に対して専門的な治療が可能となっております。

また、当科部長は東京大学医学部附属病院にて皮膚科レーザー専門外来の責任者を務めていたため、昨年度から、より多様なレーザー治療が可能になりました。最も効果の出やすいレーザー治療の対象疾患としては、いわゆる『アザ』が挙げられます。アザにはいろいろなものがあります。例えば赤アザとして代表的なものとしては、『単純性血管腫』や『イチゴ状血管腫』が挙げられます。『単純性血管腫』は多くの場合、生まれた時からある、赤く平坦なアザで、



『赤アザ』に対するレーザー治療開始のお知らせ
 お子さんの『赤アザ』にお気づきの際は、ぜひ当院皮膚科をご受診ください。

皮膚科部長 栗野 嘉弘

地域医療連携室だより!

「がんカフェ はなこ」のご紹介

当院は平成23年4月よりがん診療連携拠点病院に認定され、地域の医療機関と連携しながら各分野の専門家が協力してがんの治療にあたっています。また、患者さんやご家族に対する相談支援や情報提供の役割も担っています。今回は当院で開催しているがんサロン「がんカフェ はなこ」をご紹介します。

がんサロンとは「がん」と診断されて不安や悩み、困難を抱えながら過ごしている患者さんやご家族達が、安心して互いの体験を話したり共有できる場です。サロンでは以下のような約束事があります。

【がんサロンでの約束事】

- がん患者さん（現在治療をしていない方、経過観察の方も）、そのご家族、医療スタッフが参加します。
- 話された内容は、他の場所では話しません。
- 健康食品や健康器具の販売、宗教団体への勧誘は一切受け付けません。
- 人によって治療や経過が異なっている事をご了承ください。

当院では、昨年より「がんカフェ はなこ」と称して医療スタッフ（看護師、医療福祉相談員等）が



【第2回がんカフェ はなこ 開催の様子】

「がんカフェ はなこ」についてのお問い合わせ先
がん相談専用番号

042-466-1802

※受付時間：平日9:00～16:00
 専用番号から予約ができます

- 相談料は無料です。
- 電話が混雑する場合がございます。ご了承ください。
- 個人情報厳守いたします。



《公立昭和病院の理念と方針》

【理念】

一人ひとりの命と健康を守り、医療の質の向上に努め、熱意と誇りを持って地域社会に貢献することを目指します

【方針】

- 1 地域医療支援病院として地域連携を推進します
- 2 科学的根拠に基づいた医療を提供します
- 3 急性期病院として高度専門医療、救急医療を実践します
- 4 がん拠点病院としてがんの予防から治療までを担います
- 5 信頼される優れた医療人を育成します
- 6 健全な病院経営に努めます

当院は、東京都多摩地域の小金井市、小平市、東村山市、東久留米市、清瀬市、東大和市、武蔵村山市および西東京市の8市で構成されている昭和病院企業団により運営されています。標榜診療科は全31科。休日・夜間救急医療をはじめ、高度・専門医療、予防医学的事業、地域医療センターとして高い機能を発揮して、地域の医療需要と信頼に応えています。



公立昭和病院

〒187-8510
 東京都小平市花小金井8-1-1
 tel.042-461-0052
 fax.042-464-7912
 www.kouritu-showa.jp



●表面のつっき

くなら始めるので、昔は様子を見ましようとして治療されていませんでした。患者さんによっては、そのまま消えて無くなることもありま。しかし、半数ぐらいの患者さんでは、消えるところまではいかず、盛り上がりや痕跡(はんこん、やけど跡)のような傷跡(こと)が最終的に残ります。小さい痕跡の場合は、切除することもできますが、大きな痕跡の場合は、切除が難しい場合も少なくありません。また、切除できた場合でも、切除した傷跡が残ってしまいます。盛り上がった部位から出血し、痛みを伴うこともあります。そのため、盛り上がった前に治療を開始することが大切です。

現在は、これらのアザに対してはレーザー治療が行われており、保険適応となつています。

当院では、昨年よりこうした赤アザに対するレーザー装置である「Vbeam」を導入いたしました。Vbeamは、従来の装置と比較して、皮膚の冷却とレーザーのパルス幅を自由に変更することが可能になったことにより、レーザーの有効性と安全性がともに非常に向上した装置です。当院では単純性血管腫、イチゴ状血管腫、

毛細血管拡張症という、いわゆる『赤アザ』

に対するレーザー治療が保険適応で可能となりました。これまでは当院近隣に住いの患者さんは、赤アザ治療のために23区内など遠方への通院が必要でしたが、レーザー治療では定期的な通院が長期に必要となることもあり、患者さんやご家族に多くの負担がかかっていました。今後は公立昭和病院において、レーザー治療の経験豊かな医師による治療が可能です。

単純性血管腫、イチゴ状血管腫の場合は、患児の成長とともに皮膚が厚くなると治療の有効性が下がってしまいます。そのため、できる限り早期、乳幼児の時(可能であれば乳児期。イチゴ状血管腫の場合はさらに早く、出現直後、盛り上がる前)からの治療開始が望ましいとされています。

また、赤アザ以外のアザ、茶アザや青アザにつきましては、当院では以前より形成外科にてルビレーザーによる治療が行われております。ルビレーザーとVbeamの両方のレーザー装置を持っているため、当院では保険診療にてレーザー治療可能なアザ全てに対応可能となりました。

お子さんの『アザ』に気付きましたら、まずは当院をご受診ください。



地域包括ケアシステムと医療機能分化について

院長 上西 紀夫

国は、団塊の世代が75歳の後期高齢者になる2025年を見据え、「地域包括ケアシステム」の構築に向けて大きく舵を切り、これまで分かれていた医療と介護とを結びつけると共に、地域で高齢者のケアを行うというものです。すなわち、「住まい」と「生活支援・福祉サービス」を基礎に、「医療・看護」「介護・リハビリ」「保健・予防」を推進する中で、地域として高齢者を支えることを目指したものです(図1)。

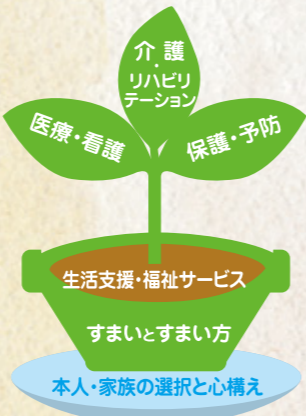


図1.【地域包括ケアシステム】

その地域の範囲としては、おおむね30分以内に必要サービスが提供される日常生活圏域(具体的には中学校区)を想定し、人口1万人、その内高齢者が2千人、500人が要支援・要介護で地域包括ケアセンターが1つあるといったもので、地域の特性に応じて作り上げていくことが課題となっています。この中でキーとなるのが「本人・家族の選択と心構え」であり「住まいと住まい方」です。すなわち、自助(自分で出来ること)、互助(ボランティアなど)による支援、共助(介護保険による支援)、そして公助(国、都道府県からの支援)を考えながら生き方、死に方を自ら考え、決断することを促しています。

また、この中で「医療」は大きな位置を占めています。その内容をこれまで「一般病床」として展開してきたため、急性期の病院が過剰で高齢者が必要とする回復期、慢性期の病床が極めて少ないことを改め、「高度急性期」「急性期」「回復期」「慢性期」の4つの医療機能に区分しました。

そして、病院がそれぞれの診療内容にあった機能を選択し、医療の効率化(医療費の削減)、回復期、慢性期病床の増加を図るべく、医療法の改正と診療報酬の大幅改訂を行いました(図2)。

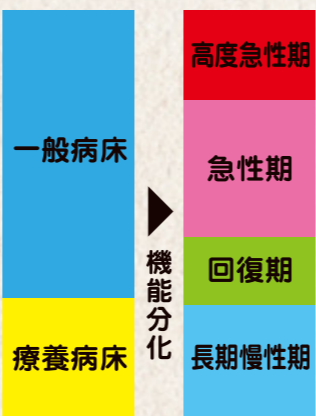


図2.【病床の機能分化】

具体的には、急性期の治療が一段落したところで適切な回復期の病床へ転院し、リハビリなどを行って早期の帰宅、あるいは社会復帰を促進する(ポストアキュートと言います)、あるいは慢性期や在宅で直ちに生命への危険はないが、ある程度の救急的な医療が必要な場合、大病院へ行くのではなく中間的な病院(地域包括ケア病床と言います)へ入院し、適切な医療を受ける(サブアキュートと言います)、といったシステムを推進することになりました。

このように、医療、看護、介護、予防などそれぞれの役割を明確にするとともに、これらが一体となって崩壊したコミュニティを再生させ、高齢者を支え、そして看取っていくこととなります。そのためには、それぞれの専門家だけではなく、元氣なお年寄り、ボランティアとなって潤滑油的に関わり、それらを行政が温かく見守り、支援していくことが超高齢者社会、多死社会を迎えたわが国で求められている課題となります。

当院ではがんや救急医療を中心に高度急性期医療を担いながら、このシステムの構築、推進に先頭になって邁進する所存です。市民の皆様には是非、この現状と今後の問題について関心を持っていただければと思います。



東久留米駅西口から当院までのバス新路線が開通します！(4月1日より運行開始)

当院までの所要時間はおよそ25分！

平成27年4月1日(水)から、西武バス株式会社による昭和病院の新しいバス路線が開通します。当院をご利用の際には、新しいバス路線を是非ご利用下さい。(※運行は平日のみです。)

運行系統/久留31系統



【運行時刻表(平日)】

東久留米西口	久留米西団地	滝山営業所	昭和病院	滝山営業所	久留米西団地	東久留米西口
7:30	7:43	→(通過)→	7:55	→(通過)→	8:13	8:30
8:50	9:03	→(通過)→	9:15	→(通過)→	9:33	9:50
10:05	10:18	→(通過)→	10:30	10:45		
			11:53	12:05	12:23	12:40
12:56	13:09	→(通過)→	13:21	→(通過)→	13:29	13:56
14:16	14:29	→(通過)→	14:41	→(通過)→	14:59	15:16
15:31	15:44	→(通過)→	15:56	16:11		

※道路状況等により遅延が生じることがあります。

【お問い合わせ先】

西武バス株式会社 滝山営業所 ☎042-474-2525
 公立昭和病院 事務局 経営企画課 ☎042-452-3511



北多摩北部災害医療図上訓練を行いました。

救命救急センター長 岡田 保誠

平成27年1月31日に北多摩北部災害医療図上訓練を当院北館ホールで行いました。首都直下地震が起きると当院周辺でも膨大な数の死者、負傷者がでると予想されています。その一方、停電、断水などが起これば、病院の診療機能は低下することが避けられませんが、DMAT(災害時派遣医療チーム)など外部からの救援部隊の到着には時間がかかると思われま。まずは地域でできる対応策を検討し体制づくりを進める必要があります。

北多摩北部災害医療図上訓練では、東京都災害対策本部、各市災害対策本部、医療対策拠点、各病院がブースを作り、90人が参加して行われました。情報の連絡、予想される負傷者に対する診療(入院)転送調整などをポイントに、実際さながらの訓練となりました。訓練で得た教訓をいかして、防ぎ得た災害死をなくすことこそ、わたしたちの目標とするところです。



【訓練の様子①】



【訓練の様子②】



第4回ブラック・ジャックセミナーを開催しました！

3月15日(日)に、当院で第4回ブラック・ジャックセミナーを開催しました。このセミナーは、「将来の医師を育てることを目標に、最新の医療にふれる機会を提供するものです。」

今回は、小金井市、東久留米市、清瀬市、西東京市の小学校新5・6年生を対象に募集を行い、多数のお申し込みをいただいた中から、抽選で選ばれた30名が参加しました。当日は、手術着に着替えた子ども達が4チームに分かれて、①手術縫合体験、②内視鏡

トレーニング体験、③超音波メス体験、④シミュレーター体験のブースを回り、医療体験をされました。

体験中は、普段触れることのない医療器械に悪戦苦闘しながらも、みなさん真剣な表情で取り組まれています。



【ブラック・ジャックセミナーの様子①】



【ブラック・ジャックセミナーの様子②】(手術縫合体験)